遊戯の時間の始めと終りには「氣ヲ付ケ」の正しい姿勢をとり、敬禮をする。正しい姿勢は氣分をひきしめ、次におこす運動へよい影響を及ぼすものである。時間中御不淨へかけ出さない樣、遊戯の前に注意しておく事。又一人づゝ歩行の練習をしたり、一拍跳びをしたりする際に自信のない幼兒はする事を厭がり、之を見て笑ふ幼兒もあるが、滿足に出來なくても、先生の命令通りに動く快活な態度や勇氣をつくりたいものである。或は又「いもむし」の遊戯をする。これは五、六人が縱一列になつてしやがみ、前の者の肩につかまつて歩く運動であるが、一人でもしやがんだまゝ動かなかつたり、肩の手を離したりすると出來ない遊戯であるから、團體精神とか、團結の心構へをつくるのによい遊戯である。「汽車」の遊戯で何人かつながつて車を廻しながら一拍跳で前進する動作がある場合、これも又不面眞目な者がゐると全體がくずれてしまふから「いもむし」と同樣、全體の爲に規律を守り協同する氣持を涵養し、團體訓練へ導入しなければならない。

○一齊指導の際にも各幼兒の個性、能力に充分注意し、それに應じた取扱ひを忘れてはならない。例へば幼兒體操を全體で行ふ場合、全體が揃ふ爲に、出來ない幼兒には一通り出來るまで、手足の伸びないところ曲らないところを指摘して補助し、運動神經が發達してゐる幼兒には、更に高度の能力を發揮し得る樣、勵みを與へたい。

○其の他の注意

イ、遊戯は室內で行はれることが多いが、出來れば戸外で行ひたい。

ロ、新しい遊戯曲目は大體一週一曲の割合でとりいれ、この他は、既習のものを反復する。

ハ、遊戯の時間は三十分乃至四十分位が適當ではないかと思はれる。

私共保姆は大體以上の樣な注意により、遊戯曲目の研究、指導の工夫につとめ——その遊戯を最も容易に幼兒に消化させるには、どの部分の指導に重きをおくか、といふ事や、同一遊戯でも取扱ひ方により、樣々に變化する事が出來る。例へば「オフネ」の遊戯は一曲の中に、舟を漕ぐ動作、波が搖れる動作、船べりをたゝき拍手をする動作によつて構成されてゐるが、始終、この動作をするばかりでなく、この「オフネ」の曲に合せて、始めから終りまで、坐つて舟漕ぎの動作をしたり、立つて舟を漕いだり、或は二つに分れて一方を波にして、兩手を前にあげてゆら〳〵搖れる動作をし、その間一方は舟漕ぎをしたり、圓形に坐つて上手に漕げる舟を圓內に出す等、同一遊戯でも定まつた振付けの通りに動作しなくても種々變化して面白く取扱ふことが出來る。——面白く興味あるやう、常に熱誠と潑溂とした意氣を以て、幼兒と共に唱ひ、共に運動したいと思ふのである。

談話の指導

安村ふさ

談話は唱歌、遊戯、手技の如く他に示す等といふ現實の成果はないが、幼兒の心の

糧として其の精神的成長に最も重要であり、且つ最も喜ぶところのものである。

談話とは極めて廣い意義のものであつて、所謂童話は談話の一部である。談話を保姆の働きかける側からいへば、大體童話と話合ひに分けられる。話合ひには時局的な話や觀察を主體とした話、及び自由な題目で語りあふものも入れられる。又談話を幼兒の話す側からいへば童話と自由發表とに分けられると思ふ。

扨、幼稚園、或ひは保育所で普通に行はれる保姆の話す側の童話、話あひの扱ひ方に就て述べてみよう。

選び方　童話を選ぶには幼兒の年齢をよく考へる必要がある。幼兒は年少の頃には韻律のあるものを好み、稍く長じては空想的なものを、又學齢の近くには戰爭等の勇ましい話又冒險的な話を好むものである。扨、保姆が此の事を基礎とし、「あの幼兒達」を頭に置いて適當なお話を、と多くの童話本を漁つても容易に見つからぬ。併し夫は其の儘話さうとするからである。探し得たものを素材として自分の話しよい樣に幾分改作しなければならぬし、又其の必要もある。讀む童話と話す童話とは自ら違ふからである。長すぎるものは短く、短かすぎるものは長くする。殘忍、悲哀のもの、環境にそぐはないもの、思想のこみいつたものは省く。そして、明るい健康的なもので、幼兒の生活を建設的ならしむるものをと心がける。尙、各地方の傳說等は其の地域の幼兒達にとつては最も密接なものであるから、大いに採り入れ、よろしく鄉土愛の一助にも致したい。

話あひに於ては、童話とは少し趣が異り、保姆と幼兒の兩者の活動がみられる。其の際保姆は話あふ題目の選定に特に意を用ひる。近頃では刻々に聞く戰果等が適當であらう。又季節の推移等も觀察と相俟ちとりあげるにふさはしいものである。

話し方　扨、幼稚園、或ひは保育所に於て保姆が童話を話す場合には特別に大げさな身ぶり、手ぶりは却つて滑稽である。極く自然な、さらりとした態度が好ましい。私は幼時を田舍に過したものであるが、「お話」の事をおもふ度に、祖母がちろ／＼燃える爐邊で話してくれた事を思ひ出す。火のぬくみと、お話の面白さに身も心も溶ける樣な快い感じ——。夫以來お話は爐邊の味があるのが上手と、私はきめてゐる。又どんなに一生懸命お話してもあの祖母の素朴な愛のもつた話ぶりに遠く及ばない事を齒がゆく思つてゐる。幼兒を愛し、お話を愛してゐれば、特別の技巧を凝らさなくても幼兒は喜んで耳を傾けて呉れるものである。そして、話者は各々自分の持ち味があるのだから、それを活かしてよろしいと思ふ。たゞどんなお話の場合でも話者は沈潛した氣分ではいけない。明るい朗かな氣分でお話になりきる事が大切である。そして極く分り易い言葉を用ひ、あのう、それでね、しちやつた等の好ましくない言葉は避ける。各地方の訛などは、其の幼兒達にそれしか通用しない場合は是非もないし、又夫を使用しなければ親密さにも缺けるから仕方がないが、其の他はなるべく正確な正しい言葉を用ひ、鼻音等は極力避け、發音正しく語尾を判然と自然な聲で話したい。話の途中で幼兒はよく質問したり聯想したことばを插んだりするが、默つて／＼等と抑へず一應は取り上げて本筋の方に直ぐ戻る樣に仕向ける。尙年長組になると童話を

朗讀して聽かせる事も出來る。此の際はなるべく話の口調でなし、繪を見せるとかの工夫をなして興味を持續する樣に仕向ける。尙申すまでもない事であるが、お話は充分に熟知してゐてすつかり自分のものにして置く事は以上述べた事の前提として當然起る事である。

お話の場所、時間　話者たる保姆の位置はどんな場合にでも話者の背後に幼兒の注意がそれる樣なものゝない事を必要とする。そして光線は話者の前面からあたる方がよろしい。卽ち室內であれば、壁、黑板等を背景にする樣工夫する。戶口近くは出入りの度に氣分を妨げられるからなるべく避ける。戶外であれば、樹蔭とか草原、芝生にしても注意のそれない樣な場所を選ぶ事が大切であらう。話者は幼兒より稍〻高めの椅子にかける。幼兒は其の前面に半圓形になるべくお互ひの間をつめて腰かける事が望ましく、又實際話し易い。遊戲等の場合の樣に圓周上に幼兒が位置をとつたり、話者が壇上に立つたりするのは、幾分演說的な氣分になるから、よろしくない樣に思はれる。多人數の場合は普通學校等で行はれる樣に、長方形でよいと思ふが其の場合もなるべく話者に接近し、お互ひの間をつめる方がしつくりする。

お話は隨時隨所に於て行はれるのが本體であつて、幼兒がお話をとせがむのに無でに却けたり、望んでゐないのに無理に押付けたりするのは、最も心ない事である。併し、大抵の幼兒は本來お話を好むもので、氣分の落着いた疲勞感のない朝等は殊に大層喜ぶ。お話の回數は經驗によれば、一週間に三、四回、時間も十分位から十五分乃至二十分位がよろしい樣である。卽ち年少組であれば稍〻短かめに、年長組であれば相當長くしても差支へない。兩者混合の組では年少者を標準にした方がよい。幼兒はお話が大變氣にいつた時、氣分の落ついた爽かな時等は「もう一つ」とせがむ事が多いから保姆たるもの平生より多くのお話を用意して置く心がけが大切である。

扨、次に幼兒が話す童話、**自由發表**であるが、幼兒は模倣性に富み、優秀なこどもならば、保姆の話した童話を殆どその儘くりかへす。又家庭で聞いた童話なども仲々よく覺えてゐて發表する。それを要求するのではないが、他人の面前で少しも臆す事なく自分の意見を述べたり、經驗を發表したりする事は非常に大事な事である。斯樣な事は幼時から躾けておかないと、大きくなつてからでは恥しいといふ氣持が先に立つので駄目な樣である。談話の使命は、この保姆の話を聽く事と、幼兒に話させる事の二つで達成されると云ひ得る。幼兒に話させるには、月曜日に日曜日の出來事を發表させる、といふ樣な方法で入つてゆくのが最も自然である。此の際、最初に話させる幼兒は、積極的な恥づかしがらぬ子供を選ぶ。そして一回は極く少人數にし、氣永に繰返して凡ての幼兒が大勢の前で發表し得るまでに導く。發音の誤りとか、餘り突飛なでたらめ等は訂正する必要がある。

最後にお話を聽く躾であるが、之も他の諸々の躾と同樣に、入園或は入所の最初から、姿勢を正しくして靜かに聽くといふ風に仕向ける。又お話の前に用便をさせて置いて、途中で立上る等の事がない樣にする。又聽き終つたならば、有難うございました、と感謝の言葉を述べさせる事も大層よい事である。お話が其の幼兒達にとつて愉快で

面白い時には、幼兒は大抵おとなしくお話に吸ひこまれてゐるものである。お話が幼兒達の年齢に、或ひは其の時の氣分にそぐはなくて面白くないが、話者の話し方に生氣がなく、澁滯したり、非常に拙劣な時は私語したり、いたづらしたりする傾向がある。そんな際、幼兒達にお行儀よくしなさいと要求する事は誠に當らぬ事である。話者たる保姆は、幼兒達の氣分を自分の方に集中させる丈の技倆と、度胸を積む樣、平素から研究する事が最も大切である。

手技の導き方

上遠文子

手技とは、繪とは別に、材料を用ひてつくる仕事の意味に用ひられてもゐるが、今はその意味を廣く用ひて考へてみたい。

先づ、種類は、繪(お畫かき)、切紙(鋏仕事)、ヌリエ、紙仕事、粘土細工、織紙、折紙、木工、自然物應用製作、豆細工、きびがら細工に別ける。その中豆細工ときびがら細工は現在その材料の關係又あまり效果もみられぬ爲殆んど用ひられてゐない。

普通一般の概念では手技は一定の材料で一定のものを上手に作れば好いと考へるが、幼兒の手技は、材料は立派でなくとも、紙片でも、庭にある草木でも好い、それを幼兒自身の手で何かの形に下手でも作り上げるその事が幼兒にとつての遊びであり、訓練でもある。卽ち結果を批評するのでなく、その過程を重んずると云ふ事は幼兒の手技にとつてよく知つておかねばならぬ。

(一)工夫力、忍耐力、考案力を養ひたい。一つの紙片に過ぎぬものも工夫によりいくらでも活用出來ると同樣、幼兒も小さい紙にても一つの工夫をこらして、又出來るまで考へてやる樣にと、工夫をこらす事の興味、途中でやめぬとの忍耐力を養ひたいものである。あきつぽい幼兒が居る。少し意の如くならず出來ぬと嫌になり「つくつて」と持つてくる。「はい〳〵」と手を借すのも好いが、幼兒と共に考へ、暗示を與へ御手傳の程度に依り、興味を引おこす樣それを誘導しなければいけない。時に、强ひても駄目な幼兒には翌日の製作を約し、一度止める。その時、翌日は必ずこれを繼續する事は大切である。又こうしたいが、どうやつても出來ぬと困つてゐる子供には手をかしてあげたい。少しなりとも暗示を與へれば幼兒は夫れに光を得て、又進みうるであらう。大人が手を借してはいけぬと頭から決めつけるのも、此場合折角の芽ばえも伸びられぬわけゆゑその點よく別けて指導したい。こんな小さい事でもちよつとした機會にもその指導に依り工夫力、忍耐力、考案力が養はれる事を忘れてはならぬ。將來偉大なる發明もその考案力、工夫力のもたらす所となるゆゑ、大いによき指導をしたい。

(二)手技をする上の躾。手技は作る事だけで、生活訓練とは別、又觀察とも別等と申しますが、決して幼兒の生活に折込まれてゐる手技は、その中に生活訓練あり、觀察ありで別々に存在するものではない。